



茨城県地域臨床 教育センターだより

2014
Vol. 11

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 平成26年8月1日発行(第11号)

茨城県地域臨床教育センターにおける 私のミッション



筑波大学医学医療系教授
茨城県立中央病院副院長兼
化学療法センター長

小島 寛

専門領域 ■ 血液内科・腫瘍内科

私は本年4月から、茨城県地域臨床教育センター教員として当院で勤務しています。と申ししても、実は県立中央病院には平成20年7月から勤務していますので、当院での診療は6年以上になります。

さて、皆様もご存知のとおり、当院は茨城県のがん診療連携拠点病院として、従来からがん診療の充実に努めてまいりました。化学療法（抗がん剤による治療）は、がんの治療法の中で、手術、放射線治療とならんで重要な位置を占めています。化学療法には吐気・嘔吐、倦怠感、白血球減少、腎機能障害などの副作用がつきもので、従来は外来での治療はリスクもあり容易ではありませんでした。近年、副作用防止のための補助療法が飛躍的に進歩したため、多くの化学療法が外来で実施されるようになりました。一方、がんの患者さんは年々増加していますので、副作用を抑え出来るだけ普通の生活をしながら、外来で治療を継続していくことが重視されるようになりました。この様な中、当院では外来での化学療法施設として、化学療法センターが平成20年に開設されました。私は、当院に赴任して以来、化学療法医として化学療法センターの設立、運営に関わってきましたので、まず化学療法センターでの診療についてご紹介いたします。

当院化学療法センターの病床数は35床です。開設時は20床でスタートしましたが、患者数の増加に対応するための増床工事が平成25年5月に完了し、35床になりました。外来化学療法施設としては県内最大規模ですが、私たちが大切にしてきたのはその規模ではなく、ここで提供できる診療の質です。化学療法センター開設に際しては、医師、看護師、薬剤師が、約半年間にわたって、どのようなセンターにするのかそのコンセプトを話し合いました。私たちはそれぞれの職種の役割を果たすことによって、チームとして患者さんをサポートし、安全で質の高い医療を提供することを目指しました。その結果、私たちが考えたシステムは、化学療法医が主体的にセンターを運営し、看護師、薬剤師もほぼ全員が専属というものです。看護師は診察に先立ち、前回の化学療法実施後の副作用を把握するために詳細な問診を行い、薬剤師はただ単に調剤や処方を担当するのではなく、ベッドサイドに出向き化学療法薬の副作用をご説明し、患者さんの話に耳を傾けます。看護師、薬剤師が患者さんと接する機会を増やし

たことによって、彼らから化学療法医に治療上必要な多くの情報が提供されるようになりました。また、私たち医療スタッフが多くの場面で患者さんに直接関われるようにするために、採血、問診、診察、調剤、治療の全てがセンター内で完結するように施設設計しました。この様なシステムは、県内はもとより全国的にも珍しいもので、医療チームとしての力が最大限発揮できるように設計・立案したつもりです。現在、当院の化学療法センターは県中北部での最大の拠点です。今後とも開設時のコンセプトを忘れることなく、スタッフ一同気持ちをひとつにし、センターを運営していく所存です。

さて、診療以外にもうひとつ筑波大学の教員として、私の重要なミッションがあります。茨城県は全国有数の医師不足県であり、人口10万人あたりの医師数は埼玉県に次いで下から2番目です。特に県北部、県西部、鹿行の医師不足は深刻です。茨城県はこのような状況に対応するために、医師修学生制度を設立しました。この制度下で、全国の大学に一般修学生が、そして筑波大学、東京医科大学、東京医科歯科大学等に地域枠学生が在籍しています。卒業生は少しずつ医師として地域で活躍し始めていますが、2-3年後には卒業生が年に30名を超えてきます。医学部を卒業すれば医師として一人前というわけではなく、医師の育成には卒後も10年以上の歳月を要します。従って、彼らが地域医療に貢献しながら一人前の医師として育っていくよう、卒後教育を充実させていくことが重要です。私は平成24年来、診療の傍ら茨城県地域医療支援センターのキャリア・コーディネーターとして、県医療対策課の職員とともにこの事業に関与して来ました。医師の育成には地域の中核病院での研修も重要ですが、県内唯一の医学部を有する筑波大学と連携しながら研修の質を高めていくことが喫緊の課題です。今後は筑波大学の教員として、地域医療に貢献することが出来る医師の育成に携わっていくつもりです。

この様に、茨城県地域臨床教育センターの教員として、診療、教育の両面から茨城県の医療の発展に貢献できればと考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



化学療法センターの薬剤師、看護師とともに（右端が筆者）

第3回筑波大学附属病院・茨城県地域臨床教育センター／ 茨城県立中央病院地域医療推進講演会の報告



准教授

高橋 昭光

専門領域 ■ 内分泌代謝・糖尿病内科

平成26年5月29日に、茨城県立中央病院、災害医療センターにおいて上記講演会を開催いたしました。今回は、当センターが設置されております茨城県立中病病の地域医療連携推進委員会ならびに笠間市医師会と共催で、当センターで今年度中の開始をめざしている放射性ヨウ素内服療法を中心に、放射性同位元素を用いた治療を、地域医療に携わる医師会の先生方にも広くお知らせし、日常診療の一つの選択肢としてご活用頂くことを目的に、一般講演、特別講演の2演題の講演が行われました。

一般演題は、私ども茨城県地域臨床教育センターに所属し、茨城県立中央病院放射線治療センター長を兼任する玉木義雄教授に「茨城県立中央病院における放射線同位元素を用いた治療の現状」を、特別演題には、国家公務員共済組合連合会水府病院 深澤洋院長先生に「バセドウ病に対する放射性ヨウ素内容療法」についてご講演を頂きました。

玉木先生の講演では、現在、茨城県立中央病院で実施可能な放射線治療の紹介があり、このうち、日本国内で承認されている非密封線源治療、すなわち放射性同位元素（以下RIと略す）を直接患者様の体内に投与して放射線照射を行う治療法をお話し頂きました。骨に集積しやすい特徴をもつストロンチウム89（メタストロン注®）によって、固形癌の骨への転移によって生じる痛みを軽減する治療、近年盛んに行われるようになった免疫抗体を用いた治療とRIによる放射線治療を組み合わせ、モノクローナル抗体にイットリウム90というRIを結合させ、抗体でB細胞性悪性リンパ腫に線源を結合させるゼヴァリン®による治療を述べていただきました。最後に、もっとも古くからあるRI治療として、放射性ヨウ素内服療法についてもご紹介があり甲状腺がん術後のアブレーション治療にも有用ですが当院では施設認可がまだ完了していないことが述べられるとともに、これら3治療法の内ではヨウ素治療が最も安価であることが紹介されました。

特別講演を頂いた深澤先生からは、はじめにRI治療と聞くと、医療者も構えがちですが、具体的に実施することは

「RIのカプセルをピンセットでつまんで、患者様の口に運び水で飲んで頂く」だけであるというご紹介があり、バセドウ病のRI治療の概要、バセドウ病の診断と鑑別の重要性、RI治療の適応と禁忌、実際のRI投与量の決め方のご紹介を頂きました。

治療の概要としては、バセドウ病のヨウ素131治療は70年以上アメリカではバセドウ病の第一選択の治療であるにも関わらず、放射線障害は一例も報告されていない安全性が確立された治療法であり、治療後約半年経過すれば妊娠も可能で、奇形・発がんの増加の危険も無いことが示されました。一方で、10年後に約40%で低下症になって甲状腺ホルモン剤の内服が必要になると示されました。しかしながら、近年では抗甲状腺薬の長期内服による副作用も指摘されており、より安全性の高い甲状腺ホルモン剤内服のみで済むように「確実に低下させる」治療が主流になりつつあることをご教示頂きました。また破壊性甲状腺炎などバセドウ病でない甲状腺中毒症をきちんと除外することの重要性を示されるとともに、自験例で鑑別に苦慮した症例を話されました。RI治療の適応としては、本邦では抗甲状腺薬の重大な副作用出現時や2種とも使用できない場合で、手術を希望しない場合が絶対的適応であること、禁忌としては妊婦や近い将来の妊娠の可能性のある女性、授乳婦が絶対的禁忌、相対的禁忌として重症バセドウ眼症が挙げられるとのことでした。投与量の決め方には施設間共通のガイドラインの様なものはなく、投与量の計算式を用いたり確実にホルモンを落とすことを目的に一定量のRIを用いる場合があることを示されるとともに、実際の実施にあたってのヨウ素制限の重要性や日常生活での注意点についてのお話がありました。

最後に、抗甲状腺薬による白血球減少症や肝機能障害例、腎不全合併のバセドウ病症例におけるRI治療をお示し頂きました。深澤先生の豊富な臨床経験も交えたお話を賜り、今後、当センターでも開始する同治療について大いに参考となる意義深い講演会となりました。



国家公務員共済組合連合会水府病院
深澤洋院長先生



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121
ホームページ <http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/chiiki/cyubyo/>



茨城県